1Kp-14

都市と農山村の交流に関する研究

―奈良県東吉野村高見小学校の山村留学を事例として―

○前田真子*　西村一朗**　(*奈良女大・院，**奈良女大)

【目的】高見小学校の児童数の減少、学級の複式化を防ぐために山村留学が行われて 10 年目になる。山村留学の当初の目的は児童数の減少を防ぐことであったが、この山村留学をめぐって地域住民・都市住民が互いに影響しあっているといえる。

本研究では、もっとも山村留学と関わりの深い児童に焦点を絞り、地域の児童・都市の児童（留学生）が互いにどう影響し合い、地域間交流に対してどのように感じているのかを明らかにする。また、山村に対する認識を生活環境・教育環境の側面から検討する。

【方法】山村留学を実施している奈良県吉野郡東吉野村高見小学校の児童 60 名（地域児童 48 名、留学生 12 名）を対象としてアンケート調査を行った。調査期間は 1997 年 11 月～12 月である。

【結果】地域の子ども、都会の子どもともに山村での自然の豊かさ、遊び場の豊かさを感じているが、一方では家の中や家のまわりで遊んでいる子どもが多く、山村の子どもの間にも都会化が進んでいるといえる。

留学生は都会にない自然に触れることができる遊び場所が豊かなところとして山村を認識している。また、自然に触れることができたこと、新しい人間関係が作れたことを山村留学をしてよかった点としてあげている。

留学生のほとんどが留学を続けたいと考えており、地域の子供たちはもっとたくさんの留学生を受け入れたいと考えており、交流に対する積極的な姿勢が見られた。